



このまちの未来を憂い、

このまちの発展を考える

五藤市長を招き

ディスカッション!

8月例会



この先必ず訪れる少子化・高齢化、もうすでに訪れている過疎化問題。それらは今までの成長する社会とは正反対の縮小する社会であり、変えようの無い事柄です。そこで行政はどうすれば良いのか、市民はどうすれば良いのか、そしてJCには何が出来るのか。三原青年会議所8月例会にてLOM支援委員会(村上陸宏委員長)により、この問題についてレポート報告、五藤市長をお招きしてのディスカッションを実施いたしました。

### 少子化・高齢化・過疎化が三原にのしかかる

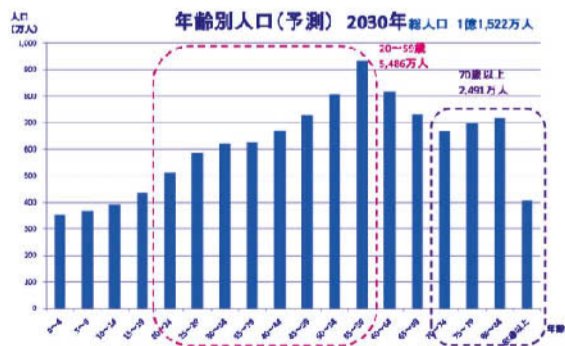
#### LOM支援委員会レポート

##### 【人口推移】

少子化・高齢化・過疎化とはそれぞれが別の問題ですが、将来において、それらの問題が同時に起こって来ます。

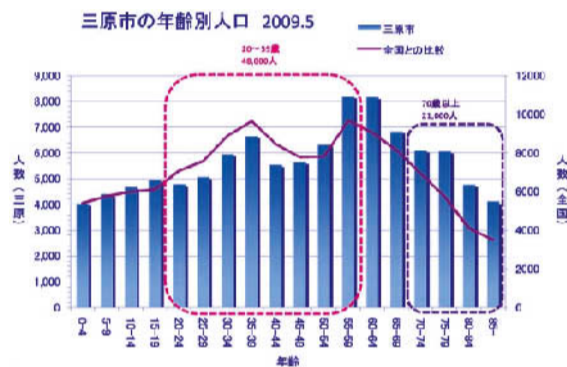
厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所では、2007年頃の約1億2800万人を境に、2030年に1億1500万人にまで人口が減少すると予測しており、現在よりも約11%の減少となります。またこの10年で国の人口が微増しているにも関わらず、三原では約5%の人口減少が過疎化により起こっています。

##### 【日本の年齢別人口】



20年後の20歳以上の人口は現段階で確定事項であり、グラフの通り労働者人口は12%減り、それに合わせて社会保障を受けるべき高齢者人口が20%増加してゆきます。現在の少子化は1970年代後半から起こっており、その頃の子どもたちが親になった現在では、出生数がかなり減って来ました。

##### 【三原の年齢別人口】



三原ではさらに深刻です。2006年の三原の合計特殊出生率は1.36で全国平均の1.32を上回っており、子どもの出生率は全国平均よりやや高いのですが、20代以降からの人口は全国平均を下回ります。進学や就職などで三原を離れる若者が多いことが原因だと思われます。また55歳以上の年齢の人口は全国平均より圧倒的に多く、これは戦後の高度成長期に工業都市として発展した際の労働者流入によるものと思われます。

##### 【まちの魅力の向上=バランスの良い発展】

我々のような市民団体にこれらの問題に対する根本的な解決は出来ません。我々に出来ることは今まで以上にまちの魅力を伸ばし、都市間競争に打ち勝つことではないでしょうか。それは工業に特化するのでも商業に特化するのでもなく、工業・商業・暮らし・観光といったものがバランス良く混在するまちづくりではないかと考えます。

##### 【目指す共通の未来は、都市間競争で打ち勝つこと】

私たちには未来のまちづくりに対しての市民共通のビジョンが必要だと考えます。具体的には、**繁栄するまちを目指し行動計画を立てることを提案します。**

三原は非常に多くの魅力的要素を持っているのに、それを十分に活かしていないのではないのでしょうか。そして、市民が一丸となりアイデアを絞り出せばもっと魅力あるまちに出来るのではないのでしょうか。それを怠ると、駅前に大きな空地があり続けてしまうのではないかと危惧します。



以上の問題をもとに、縮小してゆく社会の中で三原は生き残れるのか、生き残るにはどうすれば良いのか、五藤市長をパネリストとしてお招きし、盛影理事長とディスカッションをおこないました。



### 都市間競争に打ち勝つ

#### 五藤市長 vs 盛影理事長



ディスカッションにおいて、三原青年会議所からまちの活性化についていくつかの提案をいたしました。

##### 【三原の少子化・高齢化・過疎化について】

**市長** まずJCの皆さんにこのまちを本当に心配して頂いていることに対して、敬意を表したいと思います。少子化・高齢化・過疎化は深刻な問題だと思います。三原市も合併時に10万5千人いた人口がすでに現在10万3千人となり、しかもその内の27%が高齢者です。過疎化について、三原市内でも共同体としての機能が難しくなっている集落が何箇所か見られます。現状について市でもレポートと同様の認識をしております。そこで市長である私の使命としてまちが生き延びていく、より豊かさを求めていく、幸せを実現する三原市にしなければならないと考えておりますし、頑張ってゆかなければならないと思っています。